

組織現勢 (6月1日現在)

組合員数	25,013世帯
出資口数	93,950口
5月の新規加入	22世帯
5月の増資口数	1,169口

No. 331 再生紙を使用しています。



発行所
城南保健生活協同組合
 本部事務局 大田区大森中1-22-1 2階
 TEL (3762) 0266
 振込銀行 さわやか信用金庫大森支店
 口座(普) 0469459
 発行 「城南の保健」編集委員会
 毎月1回発行・定価1部 30円



MRI を贈る会より

おかげさまで、多くの方々からご協力をいただき、募金・地域協同基金が目標の1億円を突破しました!!

みなさまのご協力に心より感謝申し上げます。「差額ベッド代をとらず、いのちの平等と地域の医療を守る」新大田病院へMRIを導入しようとしたとりのくみが現実のものとなりました。

*MRIは5月6日から稼働開始となりました。現在は、1日7件くらいのペースで稼働していますが、1週間くらい先まで予約が埋まっています。今後は徐々に予約枠も拡大され、より検査が受けやすくなります。

新大田病院オープンしました

1年半におよぶ工事を終え、新大田病院本館の竣工を迎えました。組合員のみならず、近隣のみならずをはじめ多くの方に支えていただきました。本当にありがとうございます。

開設にむけて、引越、新館整備、電子カルテ準備などを重ね、5月1日から開設しています。一般急性期病床135床、回復期リハビリテーション病床46床が稼働していますが、5月中旬で一般病床は満床になりました。一般病床は概ね20日程度の入院期間となっていますので、毎日10人程度の患者さまの入退院があります。回復期リハビリテーション病床は、大田区

で2ヶ所目の開設となり大田病院では初めての開設です。すでに近隣の病院から60件程度の紹介があります。期待に添えていきたいと職員は奮闘中です。

今年度は、新卒看護師14人をはじめ、多くの看護職員を迎えて新病棟を開設しました。現在10対1看護ですが、今年度中に7対1看護にするため引き続き看護師採用をすすめています。新しい施設で地域のための医療に携わりたいという方を募集しています。組合員のみならず、今年度は7人のリハビリ技師を採用し、回復期リハビリテーションや一般リハビリテーションの

充実にとりくんでいます。リハビリ技師も引き続き募集していますのでご紹介ください。

建設中に始まった、MRIを贈る会のとりくみもおかげさまで目標の1億円を突破しました。あらためて、地域に支えられての大田病院であることを実感しています。このとりくみが始まってから、中でも放射線科職員は『身が引き締まる』思いを感じています。体制が厳しい中、勤務を保障しあつてMRI検査の外部研修を重ね、5月の開設に備えました。検査を受けに来た患者さまから『カンパしたよ』と声をかけられることが多く、職員は嬉しく気を引き締めて検査にあたっています。病院建設事業は大変お金がかかりますが、生協組合員や地域の方

と一緒にとりくむことで、病院を支える大切な成果につながることを実感しました。

先日、生協組合員さんから『新病院は差額ベッド料金はあるの?』との問い合わせがあったと聞きましたが、大田病院は引き続き、差額ベッド料(室料差額料金)のない地域のためのベッドを守ります。また、無料低額診療制度や救急医療を守るとりくみ等を通して、安心して暮らせる地域づくりに、城南保健生協とともにとりくみます。

本館開設と同時に、旧館解体工事、別館建設を開始しています。2011年4月に竣工予定です。引き続き、一緒にがんばりましょう。

(大田病院建設事務局長 入部史朗)

とともに、城南保健生協も力を発揮していきたいと思っています。

日生協医療部会

2010年度方針

*「いのちの大運動」をさらに強化し、「生協をいのちとくらしに活かす大運動」としてとりくみます。

*地域の絆を深め、医療生協の支部や事業所が安心を支えるよりどころになることをめざします。

します。

*地域では、3つのあい(出会い、ふれあい、支え合い)でいのちとくらしのネットワークを拡げます。

*特に「一人ぼっちをなくすためのたまり場づくり」「認知症になっても住み続けられるまちづくり」「寝たきりにならない健康づくり」を重点にします。

日本生協連医療部会総会が行われ10月1日から、日本生協連医療部会は廃止となり「日本医療福祉生活協同組合連合会」を設立

5月18日(火)19日(水)まで、全国115医療(保健)生協の代表が集まり、2010年度日本生協連医療部会総会が行われ、城南保健生協からは、本部横山が代表で参加しました。

今回の総会での特徴的なことは、日本生協連医療部会は廃止となり、「日本医療福祉生活協同組合連合会」が新たに設立されるということです。医療部会はなくなってしまうが大丈夫なの?という疑問も出るかと思えます。大まかにいいますと、今まで以上に主体的に行動できる全国連帯組織に変わる」といえます。

全国の医療生協は「生協をいのちに活かす大運動」にとりくみ、多くのいのちとくらしに向き合い、地域社会の中で役立つ医療生協の姿を示してきました。新たな困難に立ち向かうためには、全国の医療福祉生協を代表し、今まで以上に主体的に行動できる全国連帯組織が必要との考えからです。

その他、確認された2010年度の重点課題をお知らせする



腹八分

名は体を現わす。こんな言葉があります。魚でも動物でも植物でも、成長に合わせて名称が変わったり、類似しているものに合わせた呼び名があります。さらに日本の各地で、それぞれにその地方にふさわしい呼び名があります。地名だって名の由来を訪ねると、しつかり納得できると共に、その地方の歴史や風土がしのべれます。人名だって歴史と共に変化があります。現代では子どもにこんな名前をつけて子ども本人が苦労するのは、こんな余計な心配をしなくなるような名もあります。でもたいがいそのミステリ

とも思える名が、だんだんなじんできます。要するに名前が変わらずに、その名にふさわしい成長をとげているからです▼親の願いをこめた名前、歴史や自然現象から生まれた名前は、やがてその名にふさわしい発展をします。しかし自分で自らつけた名前は、その名称を維持しきれないものが少なくありません。その代表的なものが政党の名前です。さきがけ・日本新・自由・みらい・新生・新進・太陽・平和・保守・民主・黎明・みどり・改革・みんな・国民・たちあがれ、この20年のあいだに結成された国会に議席を有する政党です。いずれもこれまでの既成政党では支持を得られなくなつて、改革をめざして新党を発足させた集団です。しかし名ばかり政党の域を出られず、たいがい1回限りの選挙で賞味期限が切れて元の既成政党に吸収されていききました。名前よりもその中身を確かめる、その選択を日本国民は、いま迫られています。